

平成24年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	世界遺産条約40周年記念会合開催費	担当部局庁	外務報道官・広報文化組織	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度単年度事業	担当課室	国際文化協力室	室長 長嶋伸治			
会計区分	一般会計	施策名	Ⅲ-1 海外広報、文化交流				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項	関係する計画、通知等	世界遺産条約				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	平成24年度に世界遺産条約が採択40周年を迎える機会に、世界遺産条約に基づく過去40年の国際的取り組みを総括し、条約の将来を展望するための記念会合を我が国において開催する。本記念会合を我が国において開催することにより、海外の文化遺産の保存に対する我が国の積極的な貢献をアピールするとともに、我が国の文化遺産・自然遺産の世界遺産登録推進に資するものとする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	平成24年11月、世界遺産条約採択40周年の機会を捉え、世界遺産条約締約国関係者、各国世界遺産専門家、ユネスコ事務局関係者等の参加の下、本会合、ユースフォーラム等を開催し、本条約に基づく遺産保護の進展をレビューし、条約の将来のあり方について有益となるような議論を行う。 本会議開催経費は、外務省に加え、ユネスコ事務局、文化庁、環境省及び林野庁が負担を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		当初予算	-	-	-	38	-
		補正予算	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-		
	計	-	-	-	38	-	
	執行額	-	-				
執行率(%)	-	-					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標	成果実績	単位	21年度	22年度	23年度	目標値(24年度)
	国内外の世界遺産関係者及び日本国民に対して世界遺産に関する我が国の積極的な取り組みを周知する。 (会議参加者数)		人	-	-	-	600
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	活動実績 (当初見込み)	単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	国内外の世界遺産関係者及び日本国民に対して世界遺産に関する我が国の積極的な取り組みを周知する。 (会議開催数)		回	-	-	-	1 (-)
単位当たりコスト	38,342 (千円/事業)		算出根拠	総事業費			
平成24・25年度予算内訳 (単位:百万円)	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	参加者招へい費等	3	-				
	会場・設備・車借料等	12	-				
	会議運営業務費	16	-				
	広報費	0.4	-				
	会食・レセプション等経費	2	-				
	視察費用	0.08	-				
	職員旅費	4	-				
計	38	-					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	本会合を我が国で開催することは、国内の世界遺産の広報及び東日本大震災からの復興をアピールする機会であり、また、世界遺産に関わる積極的な姿勢を委員国にアピールすることにより、我が国の推薦案件の世界遺産一覧表への記載についても推進出来る可能性があることから、国民のニーズが高い事業であると言える。なお、世界遺産に関連する複数の地方自治体の支援を得る予定のところ、国が取り纏めて実施するのが適当。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	大規模国際会議の運営に求められるノウハウ、実績等を審査する必要性から企画競争入札を実施し、会議運営会社1社を選定した。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	本会合は、世界遺産条約採択40周年に関連した様々な行事が世界各国で開催される中で、それらを総括する最終会合として開催されるものである。同会合を我が国が主催することにより、我が国の世界遺産に関わる積極的な姿勢を効果的に示せる機会となる。なお、本会合は、世界遺産条約の所管官庁である、外務省、文化庁、環境省、林野庁が共催し、適切な役割分担を行っている。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名 文化庁 環境省 林野庁	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果		我が国の文化遺産及び自然遺産の魅力を世界に発信し、我が国の文化遺産・自然遺産の世界遺産登録を推進するとともに、世界遺産条約に対する我が国の国際的貢献及び震災後の復興を世界にアピールすることは極めて有意義。	
予算監視・効率化チームの所見			
		—	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
		—	
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
		—	
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	—	平成23年行政事業レビュー	新24-6